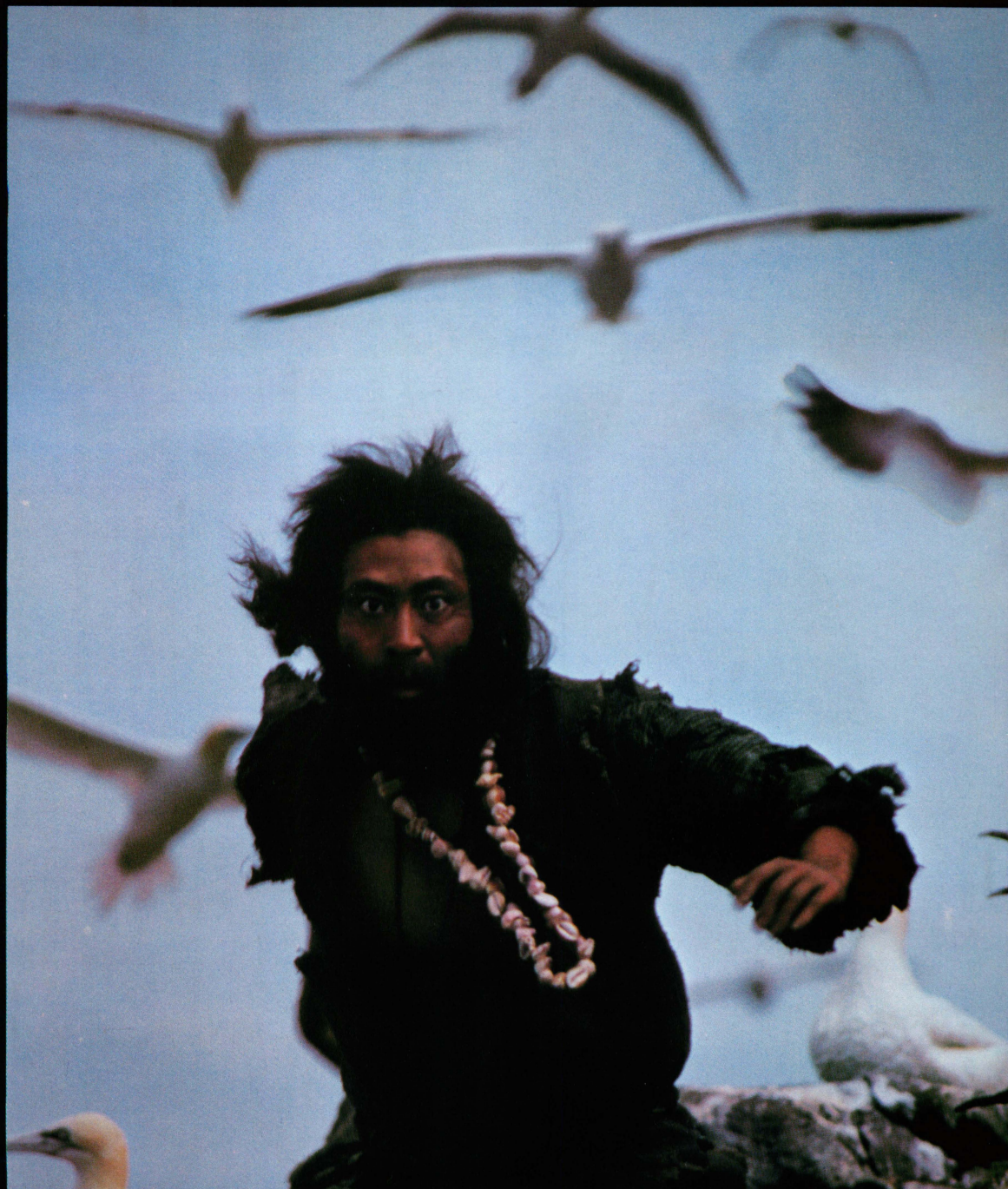


命は かけがえのないもの。いま 私は生きる。生きていく。



森谷司郎監督作品  
原作■吉村 昭  
(新潮社版)

# 流 浪

北大路欣也  
坂上二郎  
高橋長英  
岸田 森  
鷹巢豊子(新人)  
三田佳子  
渡瀬恒彦(東映)



191335-202

6月6日(土)より  
東宝系大公開

千代田劇場 (591)  
1716

上野東宝 (831)  
3431

新宿 東宝ビルヂング (351)  
3128

江東劇場 (631)  
3121

カマタ宝塚 (732)  
7771

渋谷宝塚 (461)  
8779

新宿コマ東宝 (202)  
0131

池袋東宝 (971)  
8796

浅草東宝 (844)  
3141

吉祥寺  
アカデミー東宝 0422  
(48)  
6521

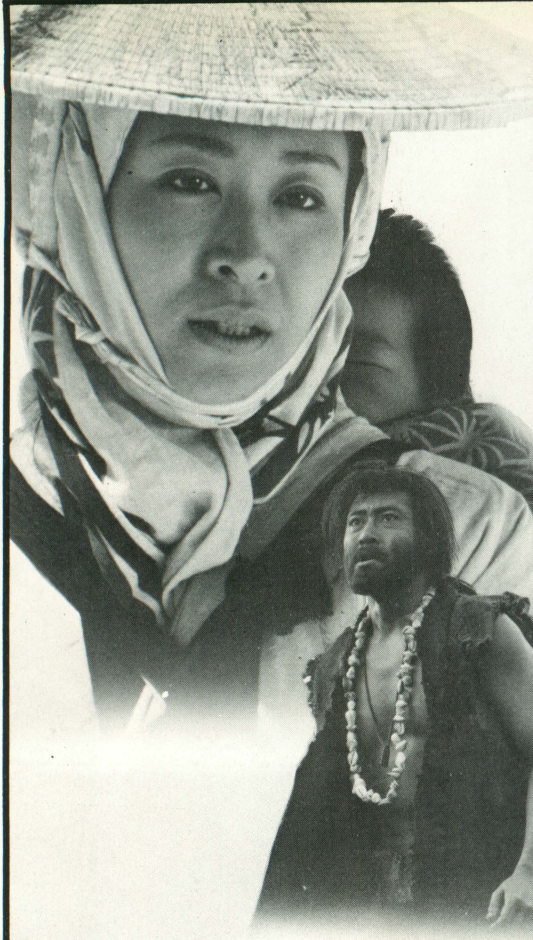


# 漂流

森谷司郎監督作品／原作・吉村昭

かいせつ

天明五年(1785年)二月、土佐の永徳丸(三百石船)が嵐に会って遭難した。四人の乗組員が漂着した島は八丈島南方の青島よりさらに南、三子島または鳥島と呼ばれる絶海の孤島であった。そしてこの物語の主人公・長平だけがただ一人生き残った。戻るべき故郷も家族も持たない彼だけが生き残り得た理由は何だったのだろうか。寛政九年(1797年)六月、手造りの舟で生還するまで長平が過した十二年四ヶ月に及ぶ生活は、人間とは何なのか、人間が生



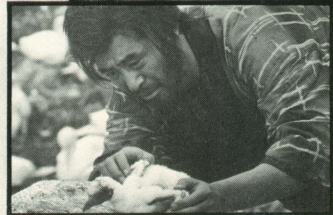
きるとは何なのか、生き抜くために最少限必要なものは何なのか。いま忘れられている、人間が生きる原点を我々に示しているのではないだろうか。

実話に基いたこの物語は吉村昭原作(新潮社版)で出版され、森谷司郎監督(東京映画製作)で映画化された。映画化に当って森谷監督は主演北大路欣也の相手役に鷹巢豊子という新人を起用した。また映画音楽をヤマハ音楽振興会が育てた六人のアマチュア音楽家に依頼した。この作品は見せ物的映画全盛の風潮に挑んで、「生命はかけがえないもの。あなたは孤独に耐えて生き抜く力を持っていますか」とひたすら問いかける。



## ものがたり

長平は生きていた。八日間漂流し、生きがえぬ火山島であった。溶岩が草木を生かすだけ焼山に彩を添えていた。この孤島に漂着したのは長平を含めて難破した永徳丸の四人であったが一人一人哀えて死に、ついに長平は独りになった。孤絶した人間だけが持つ恐ろしい寂しさに何度死のうと思つたことか。そんな長平を死の淵で救つたのは、風に耐えて飛ぶ鳥に重なる母の言葉であった。この孤島を埋めつくす白い渡鳥は文字通り長平の命を支えてくれた。肉は食糧に、羽根は衣服に、卵の殻は水受けに。長平は手を合せ泣きながら鳥を殺して生きてきた。



いた時、母の命は消えようとしていた。長平を残して断崖から身を翻えした白装束の母の姿だけが最後まで目に焼きついている。「いのちはかけがえないもの。どんなに辛くとも一人で生きていくのよ」母は最後にこう云った。孤島の断崖に立って、飛翔する白い鳥を見る時、長平は落下する白い母の姿とこの言葉を想い出す。思えばその時から、長平はいつも一人でひたすら生きてきたのだ。

九年の歳月が過ぎた。長平は波打ち際に人の足跡を発見して驚愕した。江戸の儀三郎以下七人の男たちが漂着していた。長平は長い孤独から解放された喜びに胸を熱くした。彼らは火打ち石も大工道具も持つて

いた。長平には九年間を生き抜いた孤島の知恵があった。それでも久七が死に由造が伊平次と争って刺された。

伊平次は妙な男だ。「そんなにまでして生きのびて、一体何があるのか」と、いつも皆に冷い目を向けていた。長平は伊平次が由造を刺殺した事件ではじめて焦りを感じた。このまま日を過せば次々に仲間が死ぬだろう。どうせ死ねば……

その日から流木を集めての船造りが始まった。男たちの生への執着が着実に船を仕上げた。伊平次も帰りたいに違いない。しかし、帰れば人殺しの罪が待っている。そして、完成近い船にひそかに火を放った。

焼け焦げた船に男たちは茫然となった。絶望が全員を支配し始めた。突然大地が揺れた。噴火が始まるとうとしている。ともかく鳥を脱出しない限り助かる道はない。全員の本能がそう告げていた。まず伊平次が槌をとった。夜を徹しての船の再建が始まった……

### ●キャスト

- 長平……………也郎 英太 森彦一 昭子 子雄 勉 則 悟
- 源右衛門……………北 上 路 欣 也
- 音甚儀……………坂 高 水 岸 渡 小 酒 鷹 三 桐 樋 宮 草
- 兵三平……………高 橋 島 田 瀨 川 井 巢 田 原 浦 坂 野
- 伊久由お……………長 平 の 母
- 長平……………長 平 の 母
- 次……………次
- 蔵助……………蔵 助

### ●スタッフ

- 製作 ■ 大木 舜二
- 内山 甲子郎
- 原作 ■ 吉村 昭(新潮社)
- 脚本 ■ 広沢 栄
- 森谷 司郎
- 監督 ■ 森谷 司郎
- 岡崎 宏三
- 栗原 信雄
- 高場 豊
- 山田 昌和
- ヤマハ(川上源一)
- 東京映画作品 / 東宝配給
- サントラ盤 発売
- EMI(歌・大友裕子)